

菅原道真の岩（菅公腰掛石）

現在、参拝者が祈りを捧げる前に水をかける石像、水掛不動尊が安置されている岩は、かつては日本史の伝説的な人物が休息をとった場所だったと言われています。菅原道真（845～903）は、宇多天皇（867～931）の治世中に朝廷で名を上げた知識人で官僚でした。権力争いに敗れた道真は、901年に九州に左遷されました。道真は、京都を出発する前にかつての後援者であった宇多法皇に別れを告げるため、天皇の退位後に初世門跡となった仁和寺を訪れました。しかし、宇多法皇は、勤行で忙しかったため、道真は丸一日この岩の上に座って待たされることになったのです。道真は結局、宇多法皇との謁見が叶うことなく去って行きました。道真公は左遷先で亡くなり、その直後に都は疫病や天災に何度も見舞われました。これらの災難は、道真の祟りによるものだと言われ、朝廷はすぐに道真の祟りを鎮めるために北野天満宮を建立しました。菅原道真を学問の守護神として祀る天満宮は、日本全国各地にあります。